



## 尼崎・寺町



はんしん2020s

写真・文 山田哲也

34

阪神電車尼崎駅から南西に徒歩5分。都会の喧騒から離れ、石畳と土塀の町並みが続く。尼崎がかつて城下町だった面影を今に伝える「寺町」(開明町、寺町)がある。

寺町ができたのは、1617(元和3)年、尼崎藩主、戸田氏鉄が幕府から新城を築くように命ぜられた

ことに始まる。城下を整備するに当たって、散在していた寺院を一方所に集めた。

豊臣秀吉の時代、各地の城下町に寺町が作られたのは、大きな建物とさまさま。国指定の重要文化財を始め、県・市の指定文化財が23件も残されている。

本興寺は法華宗四大本山の一つ。日隆聖人木像、開山堂をはじめ、5点の重要文化財がある。毎年11月3日の「虫干会」で寺宝が一般公開される。境内には枯れたことのない霊水井戸があり、市制水道が完備する1916(大正5)年まで市民が飲料水として使っていた。

# 石畳と土塀に城下町の面影



本堂の大きな屋根が並ぶ寺町。89年に都市美形成地域の指定を受け、石畳風の舗装などが整備された「尼崎」市で